

# チャレンジ レポート

このコーナーは、長寿・子育て・障害者基金による助成事業のうち、高齢者や障害者の在宅福祉、子育ておよび障害者スポーツ振興などの参考となるものをご紹介します。

## がん患者在宅ケアを支える 地域連携促進事業

特定非営利活動法人メディカル・コミュニケーション・ネットワーク(愛知県名古屋市長古屋市)

特定非営利活動法人メディカル・コミュニケーション・ネットワークでは、在宅療養を望むすべてのがん患者が、安心して家に帰ることができる在宅ケア支援体制の確立を目指し、医療福祉関係者などを対象に「がん患者の在宅ケアを支える地域連携フォーラム」を実施しました。



特定非営利活動法人メディカル・コミュニケーション・ネットワーク 代表理事 花井美紀さん

### きっかけは お父様のがん闘病

特定非営利活動法人メディカル・コミュニケーション・ネットワーク(以下「ミーネット」と略称)の花井美紀さんは、20数年前にお父様のがんになられた際、医療関係者とのコミュニケーションがうまくいかず、ずいぶん悩みました。そして、ずっと後になってから「医師と同じ地平に立つて話ができないうのは、がんについてあまりにも無知だったからだ」と気づかれたそうです。

愛知県で緩和ケア病棟を作るための委員会が立ち上がったとき、花井さんは市民代表として委員に任命されました。その委員会の解散とともに、東海ターミナルケア研究会ができ、緩和ケアやターミナル

ケアの活動をしました。

「終末期だと宣告された患者さんも、やっぱり一筋の希望は失わないんです。それは、告知しないことが当たり前だった父の闘病の頃と少しも変わっていません。また、がん医療に対して不満や不安を抱えている人が多いこともわかりました。今の状況を何とかしたい、知りたいと思っている方々のために何かできないかと思ったのが始まりです」と、花井さんはミーネット設立の経緯を教えてくださいました。

個人でがん患者やご家族の相談活動をしていた方々が、経済的にも精神的にも疲弊していく姿を見てきたため、地に足をつけて活動するには法人化が必要だろうと、慣れない申請書類と格闘しながら、平成16年3月に特定非営利活動法人の認証をとったそうです。

当初、資金難で活動できずにいたとき、東海ろうき

んの創業助成制度に申請したら100万円の助成を受け、それが活動に弾みがつきました。

平成16年度には、一般市民515名を対象に「ターミナルケア意識調査」を実施し、東海ターミナルケア研究会との連

携・運営協力をスタートさせました。平成17年度には、



大盛況のフォーラム会場。

### DATA

特定非営利活動法人メディカル・コミュニケーション・ネットワーク(ミーネット)  
〒466-0027  
愛知県名古屋市長古屋市昭和区阿由知通4-7  
グローバル御器所5B  
TEL.052-851-7113 FAX.052-851-7114  
<http://www.tokai-medi.co.jp/>

日本癌治療学会からの委託で、市民フォーラム「あなたやあなたの大切な人ががんになったら」を企画運営しました。これらの地道な活動が功を奏し、地域での認知度が上がってきました。

## 助成で医療関係者向けのシンポジウムを開催

平成18年度には、独立行政法人福祉医療機構(WAM)の高齢者・障害者福祉基金「地方分」の助成を受けて、「がん患者在宅ケアを支える地域連携促進事業」を行いました。



パネルディスカッション。

「在宅ケアに関する電話相談が相次ぎ、地域で安心して在宅生活にのぞめるよう、もつと整備をしなければという思いを強くしました。病院から在宅にないでいく部門のドクター・看護師出身のケアマネジャー・訪問看護ステーションのベテラン・名古屋市の健康福祉局のトップの技官をお招きして、これから地域で在宅ケアを推進するとき、みなさんが安心して暮らすように整備していくにはどうすればよいか、病院での事例や訪問看護ステーションの事例を、医療関係者を対象に話していた

できました。200名集まればいいと思つて案内状を出したところ、400名以上の申込みがありました。これだけ関心が高いということは、まだまだ整備の途上にあつて、医療・ケアを提供される方々も模索の段階だということがわかりました」と、花井さんは助成事業で開催した「がん患者さんの在宅ケアを支える地域連携フォーラム」を振り返ります。

その他、フォーラムの記録集を作るとともに、「がん患者さんの在宅ケアガイド(愛知県版)」も作成し、がん患者さんの在宅ケア資源の情報をまとめました。助成事業を実施したことで、地域での認知度もさらに上がり、多くの医療関係者とのつながりを持つことができたのも、大きな成果だったそうです。

## 行政と協働で情報交流室を

また、図書館機能を備えたがん患者・情報交流室を行政との協働でつくるための運動を2年半ぐらい展開し、平成21年度からオープンすることになりました。

「当初、行政の感触は芳しくありませんでしたが、その後しばらくして、高知や島根でがんサロンがスタートし、前例が生まれたことで勢いがつきました。やっぱり人を動かすには知識と実績が必要だということを再認識しました。積み重ねが大切ですね」と、花井さんは力強く話してくれました。

「当事者団体ならではのメリットはたくさんあります。患者同士でいろいろな情報交換をすることによつて、患者間で解決する問題がものすごく多いです。た

例えば、化学療法の副作用に不安を感じている方に、制吐剤という副作用を抑える薬を組み合わせる処方してくれるから大丈夫だとか、しょうがのしぼり汁をお湯でうすめて飲むとスカツとするとか。当事者ならではの情報ですよ。思いつきり話すことによつて発散もできて」と、花井さんは微笑みます。

ミーネットの会員数は500名に達する勢いだそうです。がん患者さんやご家族にとつての心のよりどころになるとともに、地域の在宅ケア支援体制の確立に向け、確かな足どりで前進しています。

特定非営利活動法人メデイカル・コミュニケーション・ネットワークによる「がん患者在宅ケアを支える地域連携促進事業」は、平成18年度に高齢者・障害者福祉基金の「地方分」助成事業テーマ①「地域の福祉・介護のネットワークの形成に関すること」の事業として、助成を行ったものです。

## 独立行政法人福祉医療機構評価

がん患者の在宅生活を支える地域連携をテーマに、医療・看護職や福祉職、さらに当事者参加型のしくみを形成する準備段階として、調査、フォーラムを行いました。

実際に地域連携のモデルづくりには至っていませんが、今後ますます重要になってくる在宅支援の方向性を検討するための基礎的基盤を生み出したように考えます。

19年度も、がんライブラリーステーションの設置など、積極的に事業を展開しています。

# チャレンジ レポート

このコーナーは、長寿・子育て・障害者基金による助成事業のうち、高齢者や障害者の在宅福祉、子育ておよび障害者スポーツ振興などの参考となるものをご紹介します。

## デートDV防止プログラムの 実施と啓発事業

特定非営利活動法人ハートスペースM（宮崎県宮崎市）

特定非営利活動法人ハートスペースMでは、若い男女間に起きるデートDV（ドメスティックバイオレンス）を防止するため、防止プログラムを実施するとともに、啓発用のDVDを制作し、県立高校等に配布しました。



特定非営利活動法人ハートスペースM 代表理事  
財津三千代さん

### DATA

特定非営利活動法人ハートスペースM

〒880-8691  
宮崎中央郵便局 私書箱第17号  
TEL&FAX.0985-29-2551  
<http://www2.ocn.ne.jp/~hsm/>

### 電話相談、シエルター、 啓発が活動の三本柱

特定非営利活動法人ハートスペースMの代表理事、財津三千代さんは、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（通称DV防止法）」が公布・施行された平成13年から、DV被害者の友人等とDVに関する勉強会を始めました。それを宮崎日日新聞が取り上げたこととたん、相談が殺到したため、本格的な支援をするための準備を開始しました。そして、平成14年にNPOの認証をとり、平成15年度からは、DV防止法による配偶者暴力相談支援センターとして、宮崎県から委託を受けました。

シエルター（一時避難所）運営、③DV防止の啓発活動の3つを活動の柱としています。電話相談は、週に2回行っており、年間平均300件ほどの相談があるそうです。



教師向けプログラム。グループに分かれて話します。

「年に1回は養成講座も行っていますが、DVの相談を聴くのはきつい仕事なので、なかなかスタッフが増えません。本当は回線を増やして、もっと対応したいのですが」と、本業のかたわら相談員を兼務している中村さんは苦渋の表情を浮かべます。電話がひっきりなしにかかり、昼食をとるのはおろか、トイレに立つこともできないときがあるのだそうです。 「民間団体の課題として、財源不足とスタッフの忙しさがあげられますが、うちも例外ではありません。公的な相談機関が増えていても、民間ならではの柔軟さがあります。被害者の方の選択肢を確保していきたいという思いから、交通費も十分に出不しい状況で何とか頑張っているんですよ」と、財津さんは話します。

## 助成でデートDV防止 プログラムを実施

平成18年度には、独立行政法人福祉医療機構（WAM）の子育て支援基金「地方分」の助成を受けて、「デートDV防止プログラム」の実施と啓発事業を行いました。

「若い世代の方から、恋人からの暴力の電話相談が増えてきたり、高校の養護教諭から、保健室登校している女子生徒が人工妊娠中絶を繰り返しているという相談を受けたりしたとき、この世からDVを根絶するには、若いうちに非暴力のメッセージを伝えていくことが大切なのではないかと思っただけです。それで、福祉医療機構から助成金をいただき、「DVのない社会づくり」をめざし、どんなに親しくても暴力で相手を支配してはいけないことを伝えていきました」と、財津さんはきつかけを教えてくださいました。



生徒向けプログラム。みんな真剣にメモをとります。

「デートDVは「力と支配」、何故起こる？」

「デートDVをなくすために」から構成されています。デートDVについて学ぶとともに、デートDVを予防するための、相手を尊重する対等な関係づくりをワーク形式で体験していきます。

DVもデートDVも、背景にはジェンダーバイアス（男女の役割についての固定的な観念や間違った思い込み）があり、それに気づいて行動を改めると、人として生きやすくなるのだそうです。

この3年間で約8千人の学生が受講しました。

「助成のおかげで啓発DVDを作ることができ、活動の幅が広がり、本当にありがたいです。通常の事業に上乘せしての活動だったので、多忙でしたが、終了後のアンケートには、いつも励まされました。子どもたちは本当に真摯に受けとめてくれるんですよ。大人のDV加害者の意識を変えるのはとても困難なので、早いうちにDVの芽を摘む。これしかないのです。東国原知事にも、高校3年間のうちに誰もが1回はDV防止プログラムを受けられるよう、カリキュラムの中に導入してほしいとお願いしているんですよ」と、財津さんは活動継続の大切さを熱く話してくれました。

「DVが犯罪であることは、まだまだ社会に認知されていません。DV被害に遭った方を、自分には関係ない、特別な事情のあるかわいそうな方だと思っておられる方も多いです。人として生きやすい社会にしていきたいためのメッセージを伝え、地道な努力を重ねていきたいと思っています」と、財津さんは教えてくださいました。

ハートスペースMは、DV根絶をめざし、着実に

歩みを進めています。

特定非営利活動法人ハートスペースMによる「デートDV防止プログラム」の実施と啓発事業は、平成18年度に子育て支援基金の「地方分」助成事業テーマ⑤「小・中学生、高校生や小・中学生、高校生のいる家庭に対する支援事業に関すること」の事業として、助成を行ったものです。

### 独立行政法人福祉医療機構評価

当該事業は、親密な関係にある若者たちの間に広く起きているさまざまな暴力（以下「デートDV」という。）の防止と啓発を目的としたものです。教職員向けと生徒（中学校）向けのデートDV防止プログラム実施により、理解を深めることができたとともに今後の活動への礎となったことには意義があり、教育への有効性が見られます。また、制作したDVDにより啓発活動が行われています。内容はわかりやすいように心掛けられ、コストパフォーマンスとしても申し分なく、活用性にも期待がもてます。

事業実施にあたっては、機構助成というネームバリュー効果があつたため、県の教育委員会や従前から接してきている地元の宮崎日日新聞からスムーズに後援・協力が受けられたとのことで、一役を担えたことは喜ばしいことです。

本事業を継続発展させていくためには、学校との連携強化は不可欠ですので、今後の取組みに期待しています。

# チャレンジ レポート

このコーナーは、長寿・子育て・障害者基金による助成事業のうち、高齢者や障害者の在宅福祉、子育ておよび障害者スポーツ振興などの参考となるものをご紹介します。

## 障害者スポーツ推進・ 選手育成事業

宝塚障害者スポーツクラブ・ボッチャ部（兵庫県宝塚市）

脳性まひの障害を持つ人にも体を動かす喜びをという趣旨で開発されたスポーツ、ボッチャ。南ヨーロッパ生まれで、現在40カ国で親しまれ、パラリンピックの公式競技にも採用されています。「宝塚障害者スポーツクラブ・ボッチャ部」では、日夜その腕を磨いています。



宝塚障害者スポーツクラブ・ボッチャ部  
代表 栗野涼平さん

### DATA

宝塚障害者スポーツクラブ・ボッチャ部  
(連絡先:宝塚市障害者自立生活支援センター)  
〒665-0825  
兵庫県宝塚市安倉西2-1-1  
TEL. 0797-86-5002  
FAX. 0797-83-2766  
[http://sports.geocities.jp/boccia\\_takarazuka/](http://sports.geocities.jp/boccia_takarazuka/)

### 京都チームに 負けた悔しさをバネに

宝塚市障害者自立生活支援センター職員の中山猛さんは、業務の中で脳性まひの障害者が自宅で所在無げな生活を送っている現状を見て、何か彼らの生きがいになるようなものはないかと考えていました。自らも車いす生活である中山さんが目をつけたのがボッチャでした。

「隣の伊丹市に国際級のボッチャの指導者がいましたので、その方の指導の下、伊丹市のチームと合同練習を始めたのが今から5年ほど前でした。最初は、私が声をかけるので仕方なく参加するような雰囲気、モチベーションは低かったですね」と中山さんはボッチャを始めた当時の模様を話します。

ガラッと様子が変わったのが、京都チームとの試合で完敗してからです。

「悔しがりようは大変なもので、今まで乗り気でないものだと思っていたのですが、俄然スイッチが入りまして（笑）、それからは毎回欠かさず練習に取り組み、必ず京都チームに雪辱するんだとばかり『火の出るような』力の入れようでした」

家族も「うちの子があんなに悔しがる様子を初めて見た」というほどで、中山さんもチームの変貌ぶりにただ驚くばかりだったそうです。

現在宝塚チームは12名の部員を抱え、関西地区にある約20チームとの試合に備え、月2回市内の宝塚養護学校体育館で練習を重ねています。特に重要なのが一番初めに試合をして屈辱的敗戦を喫した京都チームとの定期戦で、チーム一丸となって燃えてい

ます。

### 勝利にはランプスが鍵

平成18年度は、独立行政法人福祉医療機構(WAM)の障害者スポーツ基金「地方分」の助成を得て、ボッチャの用具を整備しました。宝塚チームは他チームよりランプスという補助具の使用率が高く、ランプスの整備が課題となっていました。ランプスは写真等を見ていただくと一見単純そうな道具に見えますが、既製品というのではなく、すべて個人個人の体格、プレースタイルに合わせたステンレスの特注品で、大変高価な道具なのだそうです。

宝塚チームがあまり勝てなかったのは、このラン

プスの整備が遅れた一面もあるので、中山さんはWAMの助成金を申請したということだそうです。また、試合などの移動費用にも助成金は有効に使われ、「最近宝塚チームは強くなったね」と一目置かれる存在にまで成長しました。



ランプスの微調整が勝敗を分けます。真剣な部員の表情。

## パラリンピック出場選手を出したい

取材当日は新年初の練習日で、宝塚養護学校体育館には部員6人ほどが集まりました。

それぞれの部員が、専属のヘルパーの介助を受けながら、ボッチャのボールを無心に投げ続ける表情は真剣そのものです。

部員が「上」、「右」などとヘルパーにランプスの微調整の指示を出すと、ランプスからボッチャのボールがころころと飛び出し、白球に近づきます。どれだけ自分のボールを白球に近づけることができるかで勝敗は決まり、一投ごとに状況が変わるスリリ

ングなゲームです。

「ボッチャを始めて障害者の生活ががらりと変わりました。積極性が始まったのです。部員の中には、宝塚市当局に『市のスポーツセンターを障害者に改善して欲しい。他の自治体と同じように、スポーツ施設にはボッチャの用具を備えて欲しい』と要請に行った人もいました。今までの彼らの状態を知っていますので、その変化は劇的といってもいいくらいです」と中山さんもボッチャの手応えを感じています。

「私がボッチャ部と名づけたのは、まだ他にもやりたい種目があるからです。いろいろなことに挑戦して可能性を広げていきたいですね。夢はパラリン



各部員には意思疎通を図ることができる専属のヘルパーがつかま

ピックの選手をうちのチームから出すことです」と力強く話す中山さん。中山さんが目指すスポーツを通じての障害者の社会参加は、着実に前進しているようです。

宝塚障害者スポーツクラブ・ボッチャ部による「障害者スポーツ推進・選手育成事業」は、平成18年度に障害者スポーツ支援基金の「地方分」助成事業テーマ④「地域におけるスポーツを通じた障害者の社会参加の推進に関すること」の事業として、助成を行ったものです。

### 独立行政法人福祉医療機構評価

経費の多くはボッチャ競技用具の整備ですが、当初計画を大きく上回る普及啓発活動の実施、大会参加と優秀な記録の獲得など、果敢に活動している様子が伝わってきました。時に障害に対する偏見なども遭遇しながらも、それを乗り越え、小学校や市内イベントなどでデモンストレーションを行ったり、各種の大会へも盛んに挑戦し、優秀な記録を残しています。他地域の競技団体との交流も着実に生まれ、メンバーの活動に対するモチベーションの上昇も大きかった様子です。また、ホームページについても経費上は作成のマニユアル本の購入だけですが、非常に洗練された、見やすいものを構築しています。メンバーが、助成金の額の大きさと責任を大きく認識し、真剣に事業が実施されたことが非常によく伝わってきました。